

働き方改革 推進事業

中間報告会

令和5年10月16日

稚内市立稚内南小学校



稚内南小学校 概要

- 児童数 380名 学級数14(内 特支2)
(児童数は宗谷管内一)
- 職員数26名(道費職員)
- 教職員構成→20代～50代のバランスがよい
→40代のミドルリーダー層の活躍
→子どもの学力向上に向けて一致
団結できる教職員集団
→時間外在校等時間は昨年よりも
減少しているが、縮減が進まない
教員がいる



【沖縄県の小学校との合同学習】

稚内南小学校の教育

■学校教育目標「仲間とともに自立する子どもの育成」

■重点目標・キャッチフレーズ

「心を成長させ学びや思いをくみ上げていく子どもの育成」

～喜び・やさしさ・元気あふれる学校～

■目指す子ども像

- 夢を抱き、何事にも粘り強く挑戦する子
- 自ら学び、自ら考え、創造する子
- 正しく判断し、責任をもって行動する子
- 自他ともに認め合い、お互いを高め合う子
- 心身ともに健康でたくましく生き抜く子
- 稚内に誇りをもち、ふるさとを愛する子



これらを達成するために、教育活動全般を見通した教職員の
業務改善による子どもと向き合う時間の確保に努める

→ 教職員の働き方改革の推進



【学習成果の発表】

働き方改革とは？

教員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、人間性・創造性を高め、子どもたちに効果的な教育を行うことができるようにすること



子どもに資質・能力を付けさせる授業改革に専念



そのために取り組むことは何か



稚内南小学校では・・・



【オンラインでの学習】

1 勤務時間を意識した働き方の意識醸成と 学校運営体制の充実

(1) 学校経営方針の目標を達成するための重点項目

▶ 「教育の質の向上に即した働き方改革の意識促進」の項を設定

(2) コアチームを中心とした具体策の構想・実践

▶ トップダウンとボトムアップの両方による働き方改革推進構想の実現

(3) 期首・期末面談時における職員との対話

▶ 「働き方改革を目指した業務の効率化」について管理職員と個人との対話
一人一人が目標と取組を定め、個別の面談等で半期ごとに成果を確認し、指導助言する取組

(4) 稚内南小学校業務改善チェックリストの活用

▶ 働き方改革の手引き「Road」を活用した、本校独自の業務改善チェックリストを作成

意識変革の促進

管理職員による方針の提示・働きかけ

6 学校経営上の重点施策

(6) 働き方改革の推進

- ① 教職員が心身共に健康な状態で児童への教育活動を進めることができる体制をつくる。
- ② 短期で改善を要することについては、管理職員を中心に迅速に対処する。並行して、コアチームを中心に「短期で改革すること」と「時間をかけて改革すること」に取り組む。
 - ア 短期での改革例
 - 学年内またはブロック内での交換授業や合同授業の実施を通して、指導の効率化を図る（実施可能な単元・授業を抽出し、指導計画に明記する）
 - 教育課程の改善・編成作業は、長期休業期間を中心に行う。
例1：2学期末に学校評価結果をまとめ、冬季休業中に教育課程の改善点について協議
例2：特別支援学級や通級指導教室を含めた、次年度の指導計画は冬季休業中に作成
 - イ 時間をかけての改革例
 - 7:50 児童玄関開放問題
- ③ 指定事業に組織的に取り組むことを通して、教育の質の向上に資する業務・事務の効率化を進める。成果については積極的に管内・管外に発信する。

【評価】7月以降の1カ月間の時間外在校等時間が80時間以上の教職員をゼロにする。(7月については達成)/全教職員の年間時間外在校等時間の平均を、前年度より100時間縮減する。/ 稚内南小学校業務改善マニュアルのチェックリスト項目のA評価を90%以上とする。

【学校経営方針】



令和5年度 稚内南小学校における働き方改革の推進について
令和5年5月1日 校長

1 基本方針

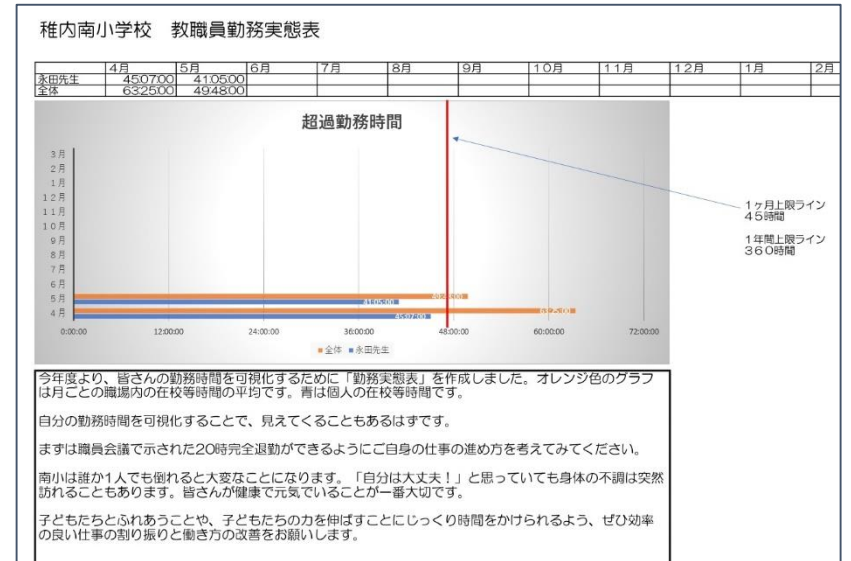
- (1) 稚内市のアクションプランを参照した働き方を全教職員が進める。
- (2) 短期で改善を要することについては、管理職員を中心に迅速に対処する。
- (3) 働き方改革に資する取組の具体は一般教職員間での協議を通して組み立て、継続的に改善を図る。

2 目標

- (1) 教職員が心身共に健康な状態で児童への教育活動を進めることができる体制をつくる。
- (2) 全教職員において、時間外在校等時間が80時間以上となる月をゼロとする。
- (3) 全教職員の年間時間外在校等時間の平均時間を前年度より100時間縮減する。
【R4 結果 561時間 / R5 目標 460時間以内】

3 令和5年度の改善事項

- (1) 管理職員を中心に進めること
 - ① インターバル制度の導入に向けた検討の開始(完全退勤時刻の設定)
 - ② 勤務時間の割振りに関する事務の簡素化
 - ③ 市職員が担う業務の整理・調整
 - ④ 職員への休憩時間の個別付与の継続(実質的な休憩時間の確保)
 - ⑤ 管理職員と教職員間での個別面談を通じた「働き方」に関する定期的な協議
- (2) コアチーム(総務)を中心に検討・実施すること
 - ① 宿題・家庭学習の在り方に関する検討…学校職員による宿題・家庭学習に関する事務の縮減
 - ② 補充学習を「基礎学力を確実に定着させるための時間・場」とするための継続的な改善
 - ③ 教育活動における外部講師の積極的な招へい ※専門家による指導の積極導入(指導の外注)
 - ④ 保護者や地域住民の授業への参画の機会の増加(発表活動の見取りや児童への支援)
 - ⑤ 日常的な事務の効率化
 - ア 職員室を中心とした効率的に校務を進めることができる執務環境づくり
 - イ 端末を活用した確認テストの実施や評価活動、宿題の実施
 - ⑥ 「働き方」に関わる協議・検討の場を計画的に設定(月計画に位置付け)
一般教職員同士の協議・検討の場の設定＝分掌内での協議を学期に1回実施(5月/9月/1月)
→「総務会」にて分掌内での協議内容を交流・取組の企画、担当者による運営
- (3) 教育行政サイドからの働き方改革の推進(市教委に進めていただくこと)
 - ① 校内での効果的・効率的なICT環境の構築
 - ア C4thの活用の継続
 - イ ICT機器を通して学習指導・補充学習・家庭学習を進めることができる環境づくり
 - ② 留守番電話サービスの導入
 - ③ 「社会教育事業等の申し込み」を学校を通すことをゼロに(例：ロードレースへの参加申し込み)



【職員個々の勤務実態の可視化】

【働き方改革基本方針】

2 働き方改革に関わる具体的な取組

授業や教材準備・印刷等に関わる業務の効率化

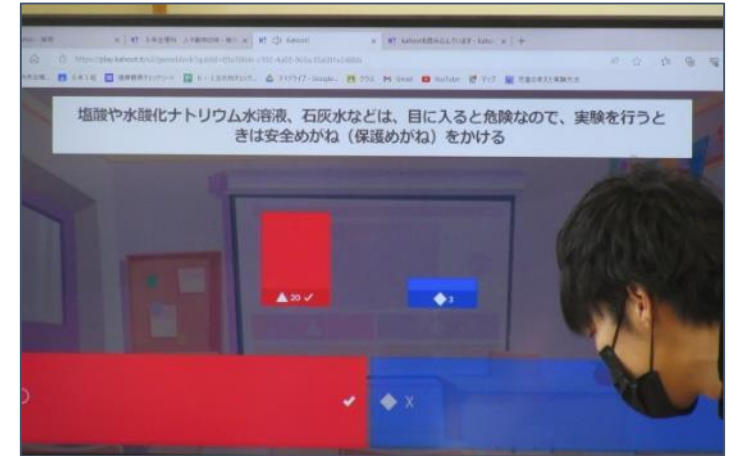
(1) ICT機器の活用による指導と評価の効率化

校内LANを活用した教材や学年通信などのデータ化・共有

(2) 専科教員の配置 及び 学年内での授業交換の実施

(3.4年外国語活動 5.6年外国語科 4.6年理科 5.6年図工科)

(3) 環境整備員・教員業務支援員の配置、高速印刷機の導入



【理科 kahoot!を活用した習熟の確認】

成果

- ・指導者が同内容の授業を複数行うことにより、教材研究の効率化・教材の共有化などに効果
- ・児童は教科の専門性を生かした授業を受けることができ、学級担任には空き時間を生み出すことができる(6年担任持ちコマ数 週29h→週22.6h)
- ・市教委による高速印刷機の導入で物理的な時間も削減

各種業務の電子化による作業負担軽減

(1) 各種調査アンケート集計のデジタル化

(2) 職員会議資料や日報のペーパーレス化

(3) 校務支援システムによる業務の電子化

〈成果〉

- ・校務支援システムによる通知表作成と成績処理等の簡素化
- ・必要な情報の一元化 / 資料探しの手間と時間を省く
- ・印刷費の軽減

学年	時間	内容
1年	14:00 ~ 15:00	1・3・4年
2年	14:00 ~ 15:00	1・3・4年
3年	14:00 ~ 15:00	1・3・4年
4年	14:00 ~ 15:00	1・3・4年
5年	14:00 ~ 15:00	1・3・4年
6年	14:00 ~ 15:00	1・3・4年

学年	学期	学期末	学年末	出席率	欠席	遅刻
1年	1	1	1	1	1	1
2年	1	1	1	1	1	1
3年	1	1	1	1	1	1
4年	1	1	1	1	1	1
5年	1	1	1	1	1	1
6年	1	1	1	1	1	1

【児童の欠席状況の確認】

組織的対応による担任の業務の軽減

(1) いじめ対応

(2) 不登校支援

(3) 特別な支援を要する児童への対応

- 〈対策〉
- ・ スクールソーシャルワーカーの効果的な活用
 - ・ 児童相談所、医療機関、保健所、適応指導教室等の外部関係機関との連携
 - ・ 子育て支援ネットワークの活用
 - ・ 生徒指導部の積極的支援

- 〈成果〉
- ・ 授業づくりの時間の確保
 - ・ 「組織的対応」による安心感

業務改善や環境づくりによる効率化・意識化

「管理職員が中心に進めること」と「コアチームによる検討・実施」の融合



出された案を具現化

(1) 職員朝会から終会への移行

(2) 教育課程の日常的な改善

(3) 教育活動における外部講師の招へいの再会（中学校教員を含む）

(4) 保護者等の授業への参画機会の増加（助かったこと=プール授業）

(5) インターバル制度の導入に向けた検討（完全退勤時刻の設定）

(6) 勤務時間の割振り変更事務の簡素化

(7) 市支援員の柔軟な活用

(8) 保護者とのやり取りの更なるデジタル化（欠席連絡）

3 本来担うべき業務に専念できる環境の整備

(1) 地域の人的教育資源の効果的な活用



4年【社会】「自治防災会とは」
協力：地元町内会防災担当



4年【社会】「防災出前授業」
協力：建設コンサルタンツ協会

〈成果〉 多様な専門性を有する外部人材を活用することで、これまでの教師だけでは提供しきれない教育を実現することを目指す。



4年【社会科見学】
「旧瀬戸邸」

(2) 学力向上グングン塾と長期休業中のグングン塾

- ・教育委員会(教育研究所)の事業として実施
- ・対象は3.4年生児童の任意希望者 週2回 国語と算数 60分
- ・基礎学力の確保と学びに対する意欲の向上を目的とする
- ・長期休業中は5年生も対象とする
- ・指導者は、退職教員、支援員



- 成果**
- ・各種テストの分析結果に基づく学力の向上
 - ・児童アンケート結果に基づく、プリントとタブレットドリルの効果的な活用による学習意欲の向上
 - ・保護者アンケート結果に基づく、「学習意欲」、「学習習慣」、「学力」の向上 →保護者からは「対象学年を広げてほしい」との声も



(3) 一斉メール送信サービスの活用、HPを活用した情報発信、
新たに欠席連絡をデジタル化(10月開始)

(4) 登下校指導の縮小とスクールガードへの業務のシフト

(5) 登校時刻の見直し(令和6年度実施)

(6) ICカードによる出退勤管理

〈成果〉

- ・ 書類の枚数を減らし、デジタル化を推進
- ・ 教員が担わなくてよい業務の拡大
(外部人材と連携)
- ・ 在校等時間の適正な把握と個別の指導助言



(7) 教材のデータ蓄積

(8) 短縮日課の弾力的運用

(9) 学年通信の発行回数に係る工夫

(10) 指導計画及び会議の精選・見直し

(11) 保護者からの難しい要望などへの
市教委からのサポート

(12) 市情報化検討推進委員会を中心
とした ICT機器活用の推進



〈成果〉

- ・ 教材研究の時短化
- ・ 放課後の事務時間の保障
- ・ 通信の発行回数の縮減
- ・ 行事の準備時数の縮減
- ・ 困難な保護者対応の早期の解決
- ・ 学習の見取りの効率化/宿題の効率化

⇒ 専念すべき授業改革への
時間に充てる

4 ミッション事務加配の学校経営への参画

事務職員の学校運営の参加、事務処理の効率化

ICTを活用した各種アンケート調査の集計

ホームページ活用による教育活動の積極的な情報発信

チャレンジテスト等の集計作業

ワークシート等の印刷業務

学年会計業務の事務職員への移行

他分掌の業務支援

タブレットの不具合の対応補助

南地区内での教材や備品の共用化に向けた体制の構築

〈成果〉

- ・ 校務分掌業務の平準化
- 学校評価でも高い数値

令和5年6月30日

保護者の皆様

藤内市立藤内南小学校長 三野宮 誠

「南小学校の教育に関するアンケート」について（お願い）

小巻の様、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動に対し、温かいご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、今年度の現時点での本校の教育やご家庭での生活の様子につきましてアンケートをとり、2学期以降の取組の改善充実を図ります。

つきましては、集計業務効率化のため、下記のQRコードもしくはURLからアクセスしてご回答ください。念のため、別紙アンケート用紙で回答する方は、担任まで提出願います。

なお、アンケート用紙は学年ごとに集計し傾向を分析しますので、児童全員に配布しております。お子様が多いご家庭には、ご負担をお掛けしますが、主旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。〆切は7月11日（火）です。

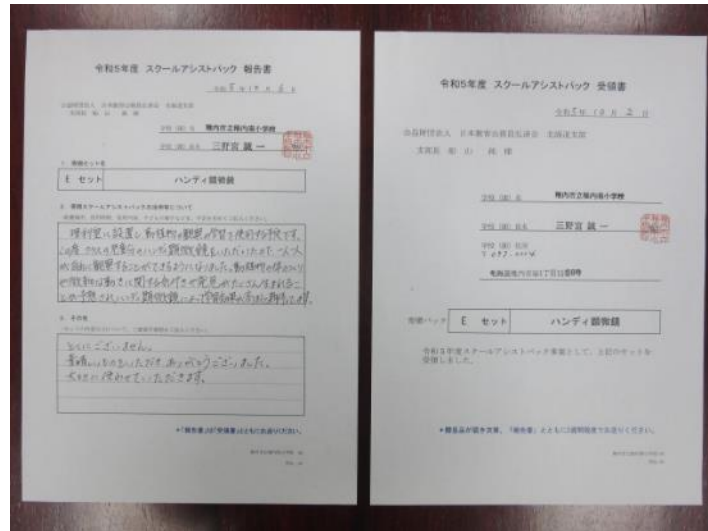
アンケート結果につきましては、集計・分析が終わりましたら、学校だよりやホームページに掲載いたします。

<https://forms.gle/qAtvEFSZpDH9fy8Y7>



【グーグルフォームの活用】

教頭の事務の軽減…担当による主体的な事務の推進



スクールアシスト
パックの申請・
報告

文化鑑賞事業
の事務

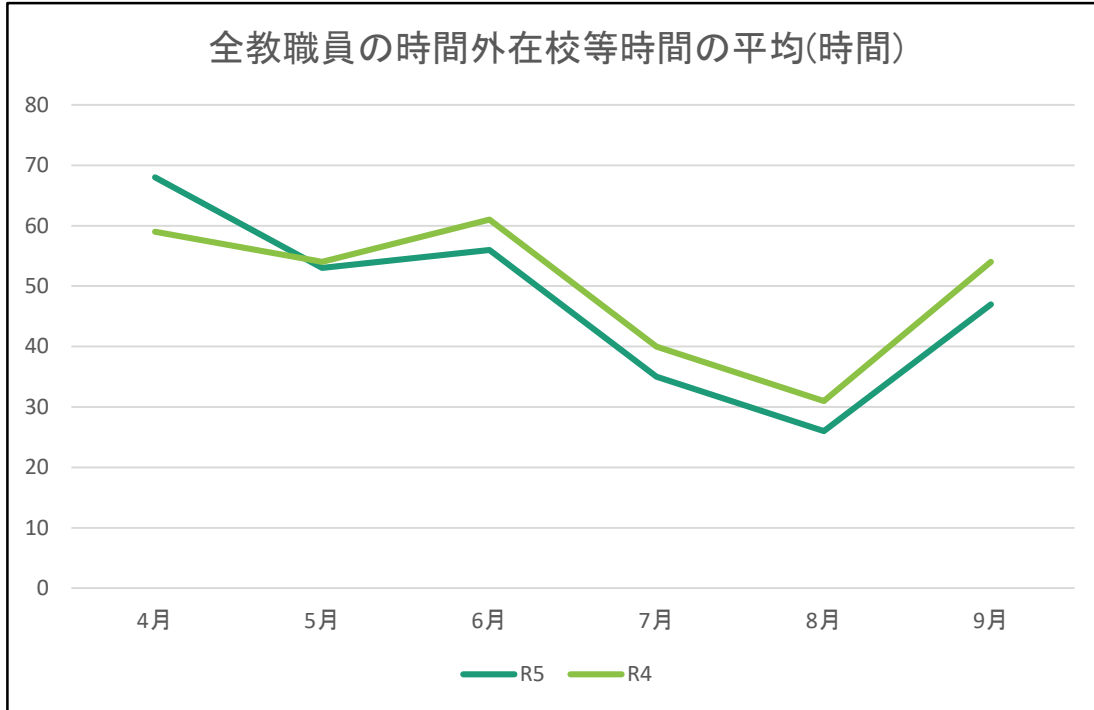


市教委と
連携した
事業
(平和学習)

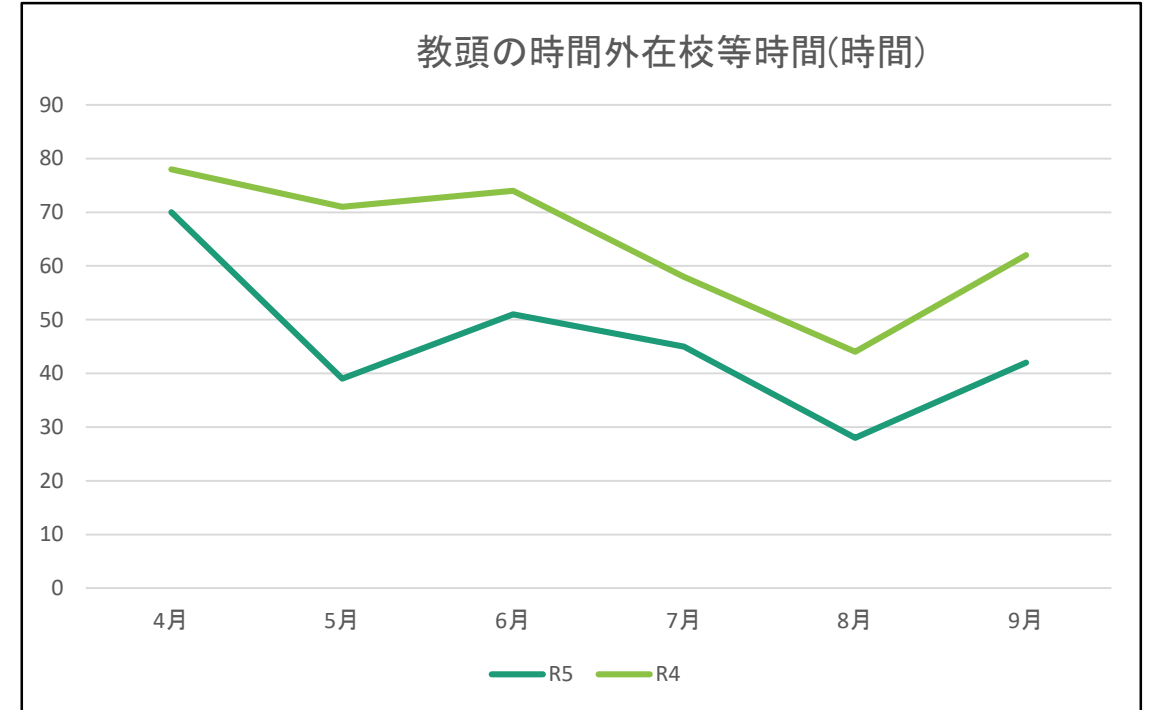
緊急の対応
(臨休による
オンライン
授業の実施)



5 勤務実態（昨年度との比較）

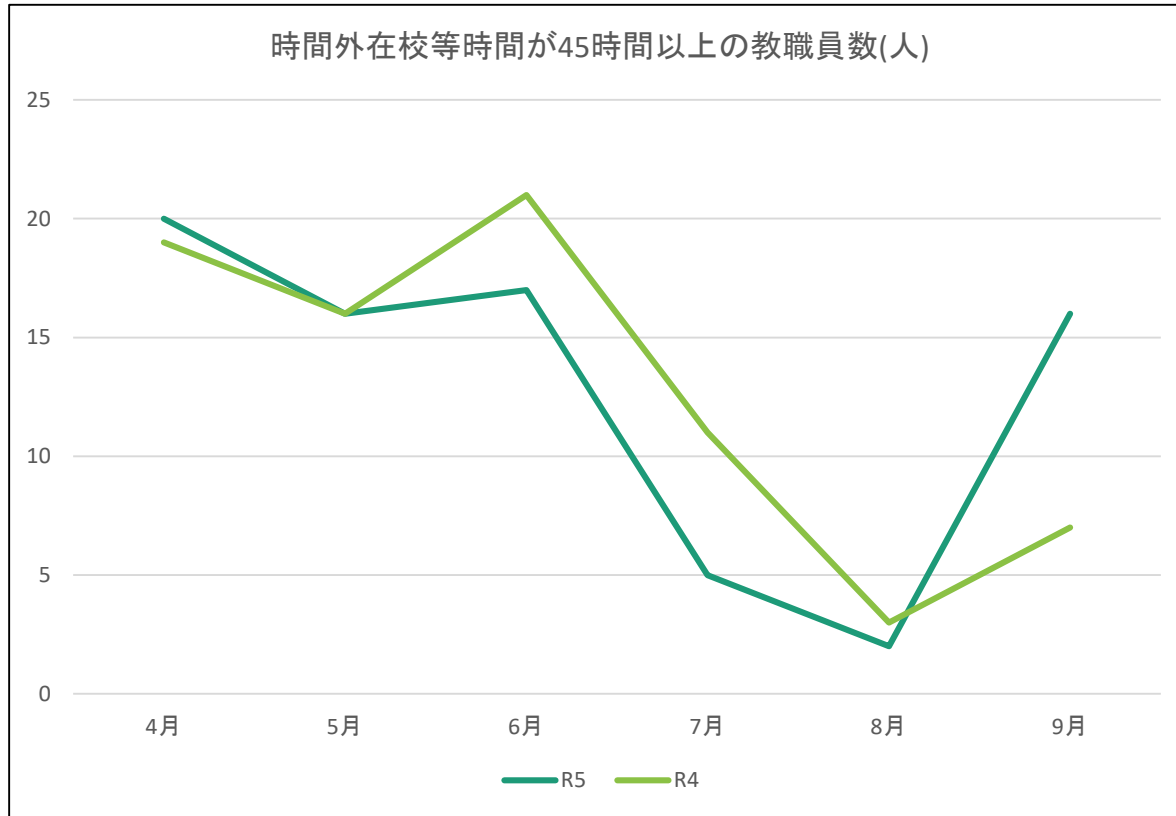


全教職員の時間外在校等時間の平均(時間)

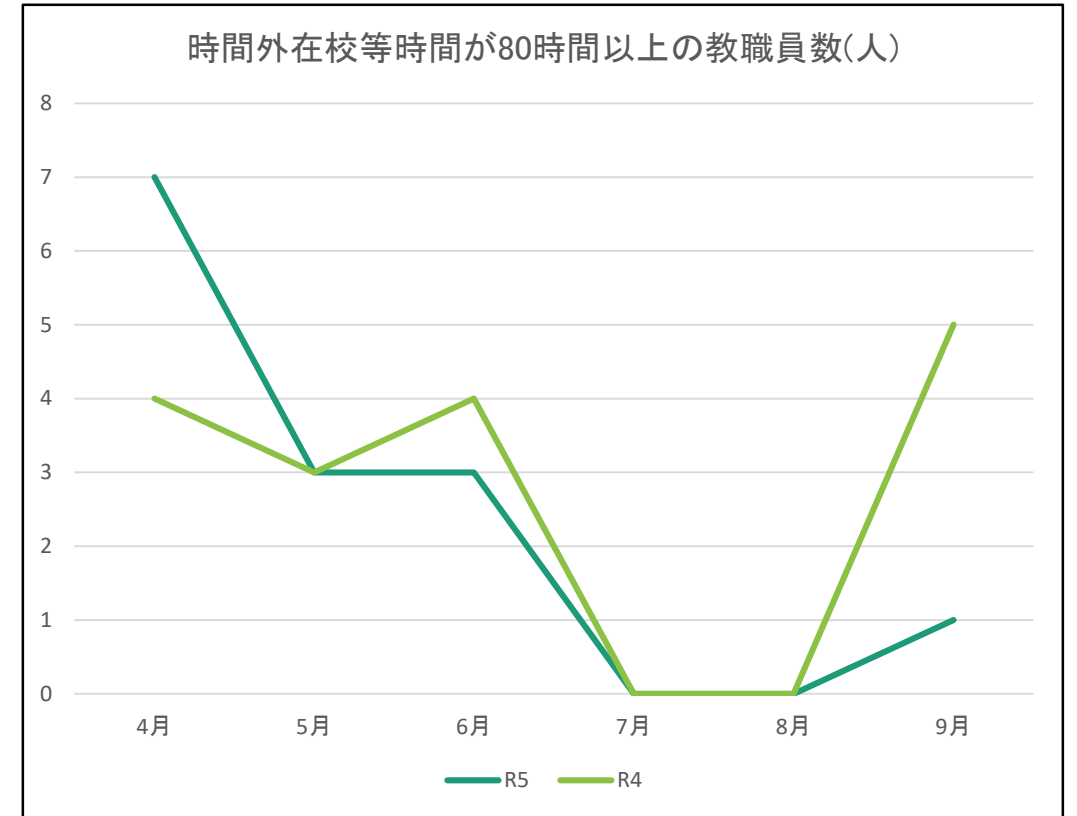


教頭の時間外在校等時間(時間)

5 勤務実態（昨年度との比較）



時間外在校等時間が45時間以上の教職員数(人)



時間外在校等時間が80時間以上の教職員数(人)

南小の働き方改革

- 授業改革に専念するための体制・環境づくり
- 心身共に健康な状態で、
人間性・創造性を高める
- 「まずはやってみよう」の精神
- 組織的に取り組むことへの
共通理解



【学年内の授業交換】

5 今後、必要と考える取組

(1) 管理職員を中心に進めること

① 勤務時間の割振りに関する
事務の簡素化

② 市職員(特別支援教育支援
員)が担う業務の整理・調整

③ 管理職員と教職員間での
個別面談を通した「働き方」
に関する定期的な協議

④ 職員への休憩時間の個別
付与の継続(実質的な休憩
時間の確保)

⑤ 「適切な働き方」に関する
学校運営協議会の理解の
促進

〈想定される成果〉

- ・ 教育活動の更なる組織的な推進
- ・ 「持続可能な教職員の働き方」に関する校内一般職員や地域住民との共有

5 今後、必要と考える取組

(2) コアチームを中心に検討・実施すること

① 宿題・家庭学習の在り方に関する検討・・・学校職員による宿題・家庭学習に関する事務の縮減

② 補充学習を「基礎学力を確実に定着させるための時間・場」とするための継続的な改善

③ 保護者や地域住民の授業への参画の機会の増加(発表活動の見取りや児童への支援)

④ 日常的な事務の効率化

ア 効率的に校務を進めることができる執務環境づくり

イ 端末を活用した確認テストの実施や評価活動、宿題の実施

⑤ 教職員にとってゆとりのある年間教育計画の策定

〈想定される成果〉

・ 実質的な時間外在校等時間の縮減

5 今後、必要と考える取組

(3) 教育行政サイドにお願いすること

① 効果的・効率的なICT環境の構築

ア C4th(校務支援システム)
の活用の継続

イ ICT機器を通して児童が主体的に補充学習・家庭学習を進めることができる環境づくり

② 留守番電話サービスの導入

③ 時間外在校時間が一定時間を超過した職員への医師の面談指導

④ 地域学校協働本部への予算措置 (地域コーディネータの持続的な確保)

〈想定される成果〉

- ・ 学習指導の効率化
- ・ 実質的な時間外在校等時間の縮減
- ・ 地域社会とともに運営する持続可能な学校づくりへの理解の促進

6 今後も大切にすること

道第2期アクションプラン「3つの視点」の節目での振り返り

(1) 個の気付き

現状分析を踏まえて各教員が自らの働き方を認識し、各自が最適な取組を実践
→「個の気付き(特に転入職員の気付き)」を全体で共有できるシステムづくり

(2) 職場内での対話

真に必要な教育活動を効果的に行うため、学校全体で対話し、業務改善を実践
→ 対話のための時間と場の確保

(3) 地域との協働

働き方改革の趣旨と取組に対する、保護者や地域住民の理解と協力を醸成
→ 学校運営協議会での熟議、熟議の結果を実現させる地学協働本部による活動、
各種便りや 学校HPでの情報発信



【教員業務支援員の活用】

[illegible]

【欠席連絡のデジタル化】

[illegible]

【加配事務職員の活用】

稚内南小学校の強みは「チームとして組織的に動く」こと。「孤」育てにならないよう連携・協働を大切に、働き方改革にも取り組みます。